

テーマ	総合原価計算（復習）
-----	------------

1. 次の資料に基づき、純粋先入先出法により完成品原価、完成品単位原価（月初仕掛品完成分と当月投入完成分）、月末仕掛品原価を求めなさい。

【資料】

- ① 当月の生産データ

月初仕掛品	800個	(0.5)
当月投入	5,000個	
合計	5,800個	
月末仕掛品	1,000個	(0.2)
完成品	4,800個	

※（ ）内の数値は加工進捗度を示す。

- ② 当月の原価データ

	直接材料費	加工費	合計
月初仕掛品原価	¥840,000	¥696,000	¥1,536,000
当月投入原価	¥5,310,000	¥8,556,000	¥13,866,000

完成品原価	円
完成品単位原価 (月初仕掛品完成分)	円
完成品単位原価 (当月投入完成分)	円
月末仕掛品原価	円

2. 次の資料に基づき、完成品原価、完成品単位原価、月末仕掛品原価を求めなさい。月末仕掛品への原価配分方法は平均法によること。

【資料】

- ① 当月の生産データ

月初仕掛品	800kg	(0.4)
当月投入	5,200kg	
合計	6,000kg	
正常減損	400個	
月末仕掛品	1,600個	(0.6)
完成品	4,000個	

※（ ）内の数値は加工進捗度を示している。なお、材料はすべて工程の始点で投入された。

- ② 当月の原価データ

	直接材料費	加工費	合計
月初仕掛品原価	¥272,000	¥384,000	¥656,000
当月投入原価	¥1,811,200	¥6,014,400	¥7,825,600

- ③ 正常減損は工程を通じて平均的に発生している。非度外視法により計算すること。

完成品原価	円
完成品単位原価	円
月末仕掛品原価	円

テーマ	総合原価計算（復習）
-----	------------

3. 当社では、全原価要素工程別原価計算によって製品原価計算を行っている。また、月末仕掛品原価は平均法によって計算している。次の資料に基づいて、非累加法（工程を単一とみなす計算方法）により最終完成品原価、最終完成品単位原価および月末仕掛品原価を計算しなさい。

【資料】

① 当月の生産データ

第 1 工 程		第 2 工 程	
月初仕掛品	250個 (40%)	月初仕掛品	350個 (80%)
当月投入	1,970個	当月投入	1,900個
合計	2,220個	合計	2,250個
正常仕損	一個	正常仕損	50個 (100%)
月末仕掛品	320個 (75%)	月末仕掛品	200個 (50%)
完成品	1,900個	完成品	2,000個

② 当月の原価データ

	第 1 工 程	第 2 工 程
月初仕掛品原価		
材料費	¥177,720	¥246,400
第 1 工程加工費	¥52,000	¥182,960
第 2 工程加工費	¥-	¥155,000
当月投入原価		
材料費	¥1,426,280	¥-
第 1 工程加工費	¥1,020,000	¥-
第 2 工程加工費	¥-	¥748,000

※ 材料は、第 1 工程の視点ですべて投入される。また、第 1 工程の完成品はすべて、ただちに第 2 工程の始点に投入される。

※ 生産データの（ ）内の数値は、加工進捗度および仕損の発生点を示す。

※ 正常仕損費の負担は、正常仕損の発生点によって判断している。

	最 終 完 成 品 原 価	最 終 完 成 品 単 位 原 価	月 末 仕 掛 品 原 価
第 1 工 程 費	円	円	円
第 2 工 程 費	円	円	円
合 計	円	円	円

テーマ	総合原価計算（復習）
-----	------------

4. 当工場では、等級品 A および B を生産し、等級別総合原価計算により製品原価を計算している。次の資料に基づき、各等級品の完成品原価、完成品単位原価、月末仕掛品原価を計算しなさい。

【資料】

① 当月の生産データ

製 品 A			製 品 B		
月初仕掛品	400個	(30%)	月初仕掛品	280個	(70%)
当月投入	2,320個		当月投入	1,680個	
合計	2,720個		合計	1,960個	
正常仕損	240個	(60%)	正常仕損	160個	(60%)
月末仕掛品	480個	(70%)	月末仕掛品	360個	(50%)
完成品	2,000個		完成品	1,440個	

② 当月の原価データ

	製 品 A	製 品 B
月初仕掛品原価		
材料費	¥2,810,400	¥1,108,800
加工費	¥580,800	¥869,800
当月投入原価		
材料費	¥20,800,000	
加工費	¥17,880,000	

※ 月末仕掛品原価の計算は、平均法による。

※ 正常仕損費の処理は進捗度を加味した度外視法による。なお、仕損品の評価額はゼロとする。

③ 等価係数に関する資料

	製 品 A	製 品 B
材料費	1	0.6
加工費	1	0.8

※ 等価係数は原価要素別に上記のように設定している。なお、等級別計算は等価係数を用いて当期投入原価を各等級品に配分し、等級品ごとに完成品原価を計算する方法（組別総合原価計算に近い方法）による。

	完 成 品 原 価	完 成 品 単 位 原 価	月 末 仕 掛 品 原 価
製 品 A	円	円	円
製 品 B	円	円	円

テーマ	総合原価計算（復習）
-----	------------

5. 当工場では、材料 X を投入して連産品 A、B、C を生産している。次の資料に基づき、市価法によって各連産品に配賦される連結原価をそれぞれ計算しなさい。

【資料】

- ① 当工場では第 1 工程の始点で材料 X を投入し、第 1 工程の終点で連産品 A、B、C が分離される。そのうち連産品 A 及び B はそのまま製品 A 及び製品 B として売却しているが、連産品 C は第 2 工程で追加加工を施し、製品 D として売却している。
- ② 当月の第 1 工程における完成品量は 3,600kg であり、その内訳は以下のとおりである。なお、月初及び月末に仕掛品はなかった。

連産品 A	1,500kg	連産品 B	1,200kg	連産品 C	900kg
-------	---------	-------	---------	-------	-------

- ③ 当月の第 1 工程における投入原価は以下のとおりであった。

材料費	188,100 円	加工費	164,700 円
-----	-----------	-----	-----------

- ④ 各製品の正常市価および見積分離後加工費は以下のとおりである。

	製品 A	製品 B	製品 D
正 常 市 価	@420 円	@480 円	@840 円
見 積 分 離 後 加 工 費	—	—	198,000 円

	連 結 原 価
連 産 品 A	円
連 産 品 B	円
連 産 品 C	円